

平成28年7月14日(木) 2校時  
 指導者 教諭 岡村 眞理  
 場 所 1年1組教室

### 1 本研究授業の提案

- (1) 1対1対応をして残りを取るという操作活動を、絵を動かしながら視覚的に捉えさせることを通して、「差」に着目させる。
- (2) 説明する話型を提示し、それに合わせて話をしながらブロック操作をさせることを通して、求差の意味を理解させる。

### 2 本研究の授業技術課題

- (1) 分かりやすい発問や指示を行う。
- (2) 一人一人の実態を把握し、個に応じた支援を行う。

### 3 単元名 「のこりはいくつ ちがいはいくつ」

### 4 単元の目標

減法の意味と被減数が10以内の減法の計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

### 5 指導計画 (本時 5/7時間)

小単元	時	主な学習活動
1 のこりはいくつ	①	求残の場合についての、減法の意味と式の表し方
2 ひくといくつ	②	被減数が10以内の減法計算 求補の場合についての、減法の意味と式の表し方
	③	計算カードを使った、被減数が10以内の減法計算の練習
3 0のひきざん	④	0を含む減法の意味
4 ちがいはいくつ	⑤	求差の場合についての、減法の意味と式の表し方 (本時)
	⑥	求差の場合についての、文章問題解決を通じた減法の意味理解
5 もんだいづくり	⑦	問題づくりによる式の読みを通じた、減法の意味理解

### 6 本時の展開

- (1) ねらい  
求差の場合について、減法の意味を理解する。

#### (2) 指導過程

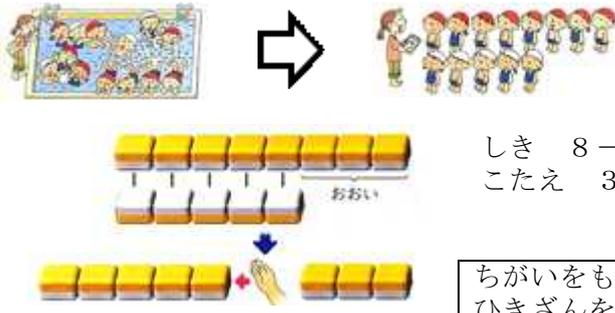
段階	学習活動	指導事項・留意点・評価
つかむ	1 1対1対応で比べる方法を知る。 ・かえるが5匹います。金魚が3匹います。 違いは何匹か、どうしたら分かりやすいでしょう。 ・違いは2匹です。	・かえると金魚の違いを考えるには並べ替えると分かりやすいことを、絵を動かして並べるという操作活動を行うことで視覚的に捉えさせ、本時の学習問題につなげる。
見通す	2 学習問題を知る。 ・みんなでプールに入っていますが、どうしたら分かりやすくなりますか。	・1対1対応にするとよいことを問題場面の絵から視覚的に理解させる。

	あかぐみは8にんいます。しろぐみは5にんいます。 あかぐみは、しろぐみよりなんにんおおいでしょうか。	
考える	3 学習問題について、求差を求める。 ・算数ブロックを使って考えましょう。 ・隣の友達と、並べた算数ブロックを見せ合い、お話をしながら動かして説明しましょう。 ・何人多いですか→3人	・「はじめに」「〇個動かします」「〇個おおいです」という話型を示し、説明の仕方を支援する。 ・机間指導を行い、答えを出せないでいる児童に個別支援を行う。  ・机間指導でいくつかの考え方に類型化し、意図的指名で考え方を説明させる。  ・求残、求補の場合と同じように、求差も引き算を使って求めることができることを理解させる。  ・ワークシートを使って考えさせる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">評価</div> 求差の場合について、減法の意味や式の表し方を理解している。
確かめる	4 みんなの前で、算数ブロックを動かしながら説明する。  5 立式する。 ・算数ブロックを使ったお話を式に表すとどうなりますか。 しき $8 - 5 = 3$ こたえ 3にん	
まとめる	・どちらが多いか、ちがいを考えるときも、引き算を使います。  6 適応問題を解く。 ・②の問題を考え、式と答えを書きましょう。	

### (3) 板書計画

ちがいはいくつ

あかぐみは8にんいます。しろぐみは5にんいます。  
 あかぐみは、しろぐみよりなんにんおおいでしょうか。



しき  $8 - 5 = 3$   
こたえ 3にん

ちがいをもとめるときにもひきざんをつかう。

### (4) 本時の評価

具体の評価規準	求差の場合について、減法の意味を理解し、式に表すことができる。 (観察・発言)
Aと判断する姿	求差の場合について、算数ブロックを操作しながら分かりやすく説明することができる。 (観察・発言)
Cへの手立て	算数ブロックの動かし方を個別に支援し、求差の場合について、減法の意味を理解させる。